

Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース No.32
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1979, 32, p. 1-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65403
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

昭和54年度利用者講習会計画

時 期	タ イ ト ル	内 容	参加資格者	募 集 範 囲
☆ 5月16日 (水)	ACOS 900 の運 用及び JCL FORTRAN (I)	ACOS 900 における運用方法とジョブ制御言 語を解説する。 FORTRAN (J I S 7 0 0 0) の知識のある人 を対象に ACOS FORTRAN プログラミン グテクニックを述べる。	大 阪 大 学 大 型 計 算 機 セ ン タ ー 利 用 者	全 地 区
☆ 5月23日 (水)	MTコンバージョン	磁気テープのコンバージョンを中心に解説する。	〃	〃
☆ 6月 4日 (月) 5日 (火)	T S S TSSファイルシス テム	TSSのコマンドを中心に解説する。 TSSにおけるファイルシステムと使用法を中 心に説明する。	〃	〃
6月12日 (火)	データベース (I)	データベース管理システム (INQ) の概要を 説明する。	〃	〃
☆ 6月25日 (月)	バッチからのフェ イル利用法 FORTRAN (II)	バッチからみたファイルの使用法を解説する。 ACOS FORTRAN の入出力技法を述べる。	〃	〃
7 月 上 旬	図 形 処 理	1. ドラフター 2. X, Yプロッター 3. 3次元グラフィック 4. TSSグラフィック の解説 実習も行う。	〃	〃
7月10日 (火)	データベース (III)	INQによるデータベース構築のための手順に ついて説明する。	〃	〃
9月11日 (火)	データベース (III)	データベース管理システム (INQ) のデー タ定義語、データ操作言語について解説する。	〃	〃

注) 講習会開催日時の詳細及び担当者等については、開催1ヶ月前には広報します。

☆印については年2回実施の予定です。なお、2回目については日時等決定しだい広報しま
すが、受講者が少ない場合中止することがありますので、あらかじめ御了承願います。

昭和54年度計算機利用申請の取扱いについて

昭和54年度の利用申請には「継続申請」と「新規申請」の2種類があります。

1. 継続申請

継続申請とは同じ研究課題で54年度も引き続き利用することです。

この申請をすると課題番号、パスワード及びファイル（利用終期を明記していない場合のみ）は継続できます。

(1) 継続申請の受付期間

2月16日（金） から 3月22日（木）まで

(2) 継続申請の必要書類

ア．大阪大学大型計算機センター利用申請書

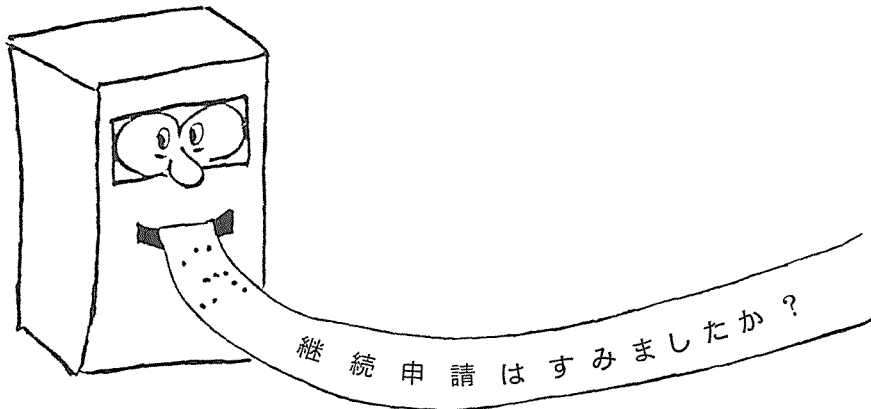
イ．支払責任者及び経理責任者申請書

継続申請の場合、各申請書の記入は簡単で一部の記入ですみます。

なお、「利用申請に係るコード表」の提出は不要です。

(3) 提出先

所属の連絡所に提出してください。



2. 新規申請

(1) 新規申請の受付開始

2月16日（金）から

(2) 新規申請の必要書類

ア．大阪大学大型計算機センター利用申請書

イ．支払責任者及び経理責任者申請書

ウ．大阪大学大型計算機センター利用申請に係るコード表（OCR用紙）

エ．経歴書（教務員・研究生のみ）

(3) 提出先

所属連絡所に提出してください。

科学研究費による利用及び共同研究者は継続利用できません。
毎年度「新規」として申請してください。

申請書類は、各連絡所、各地区協及び当センタージョブ受付に備えてありますので御利用ください。

利用負担金の改訂について

すでに速報№57（53. 12. 4付）でお知らせしましたが、システム900の導入を契機として、負担金を引き下げることにについて検討を重ねた結果、昭和54年1月から別表のとおり改訂いたしました。

今回の負担金引き下げは、今後の利用の増加を前提としていますので、これを機会に当センターにおける計算機利用が一層活発になることを期待しています。

主な改訂部分は次のとおりです。

1. バッチ処理の基本負担額

計算依頼1件につき80円を50円に引き下げました。

2. 長時間ジョブの演算負担額

バッチ処理のCPUタイムが900秒を越える部分について、1秒につき3円を2円に引き下げました。

3. 出力負担額

現行のリモート出力負担額（1記録につき0.03円）にかわるもので、計算結果の出力ファイル占有1記録につき0.02円をすべてのバッチ処理に適用します。

4. センターのラインプリンタ出力

センターでラインプリンタ出力した場合、ラインプリンタ用紙1頁につき5円を3円に引き下げました。

5. ファイルの使用負担額

使用月ごとに1リンクにつき10円とします。

また、申請に基づく割当量が10リンクまでは無料とします。したがって現行の50リンクをこえる部分の1リンクにつき20円を10円に引き下げることになります。これは、ファイルを十分に利用されて、計算処理の能率を高めていただくための措置です。

6. 大阪大学豊中地区及び中ノ島地区データ・ステーションに出力した時

両データ・ステーションに出力した場合は、上記3の出力負担額のほかに1記録につき0.06円を加算します。

7. 新しいサービスのデジタル・プロッタ及び三次元グラフィックについては別表の負担額とします。

別 表

区	分	負 担 額
基 本 負 担 額	バッチ処理	計算依頼1件につき50円とする。ただし、リモートバッチ処理については、計算依頼1件につき20円とする。
	TSS処理	計算依頼1件につき20円とする。
演 算 負 担 額	バッチ処理	CPUタイム1秒につき5円とする。ただし、計算依頼1件のうち900秒を超える部分については、1秒につき2円とする。
	TSS処理	CPUタイム1秒につき5円
出 力 負 担 額	バッチ処理	1記録につき0.02円とする。ただし、センターに出力した場合は、LP用紙1頁につき3円、カード1枚につき1円を加算した額とする。
フ ェ イ ル 使 用 負 担 額	バッチ処理 TSS処理	使用月ごとに、申請に基づく割当量が10リンクまでは無料とし、10リンクを超える部分については、1リンクにつき10円とする。
ド ラ フ タ ー 使 用 負 担 額		ドラフター使用の計算依頼1件につき400円
デ ィ ジ タ ル プ ロ ッ タ ー 使 用 負 担 額		デジタルプロッター使用の計算依頼1件につき150円
三 次 元 グ ラ フ ィ ッ ク デ ィ ス プ レ イ 使 用 負 担 額		ハードコピー用紙1枚につき200円

備 考

1. TSS処理においては、会話開始（LOG-ON手順）から会話終了（BYEコマンド又はLOG-OFF手順）又はサービス中断の直前のコマンドまでを計算依頼1件とする。
2. CPUタイムに1秒未満の端数が生じたときは、計算依頼1件ごとに、これを1秒に切り上げるものとする。
3. 出力負担額に1円未満の端数が生じたときは、計算依頼1件ごとに、これを1円に切り上げるものとする。
4. 会話型リモートバッチの場合の基本負担額は、TSS処理及びリモートバッチ処理に係るものを加算した額とする。
5. 大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションからのリモートバッチ処理に関しては、表中出力負担額のただし書を「大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションに出力した場合は、1記録につき0.06円を加算した額とする。」と読み替え、センター処理と同様に取り扱うものとする。

研究開発計画の公募

センターでは研究開発計画を募集しています。研究開発としては、

- 1) 計算機の利用に関するもの(各種のユーティリティ・プログラム作成などが含まれます。)
- 2) 計算機言語に関するもの
- 3) 基礎および応用プログラム開発に関するもの

などで、センターの計算機システムの利用に関して利用者に役立つもの、システムの運用に役立つもの、が対象となります。これまでに多くのライブラリー・プログラムなどが研究開発計画で作成されセンターに登録されています。最近開発中の蛋白質データ・ベースも、研究開発計画の一つとして作成されているものです。

センターでは昨年末から新システムが稼動を始め、処理能力も増大し、繁忙期はともかくとして、研究開発に割ける計算機時間にも従来よりも余裕がでてくると思います。一方、3次元グラフィック・ディスプレイなど新しい装置も増加しましたが、これらの装置については、基本的なルーチンだけしかまだ整えられていないものもあります。したがって、これらの装置を十分に使いこなすためにも、豊富な応用プログラムの作成が望まれます。

当センターでは、研究開発計画の募集は、他センターのように年に何回という形ではなく、常時行っています。それだけに却って公募のお知らせが利用者の方々の目にとまらないのではないかと考え、時々ニュースに掲載することにしました。

センターのハード面での拡充も一つの段落にきました。今後は、これまで以上に、ソフト面を充実していかなければならないと考えています。研究開発計画はセンターの利用有資格者であれば誰でも応募できます。別記の研究開発内規によってご応募されることを期待しています。なお、念のために、研究開発計画公募を開始した昭和47年に、その趣旨を説明した文(センター・ニュース No.7, P. 37)を再録いたします。

研究開発計画の公募について

大阪大学大型計算機センターでは、以下の要領で研究開発課題を募集しておりますから多数ご応募ください。ここに研究開発課題と言っているものは、別記「研究開発計画の公募に当って」に述べてあるような趣旨に基くもので、

- 1) 計算機の利用に関するもの(各種のユーティリティ・プログラム作成などはこれに含まれ

ます。)

2) 計算機言語に関するもの(TSSのための対話型FORTRANの開発などがこれに含まれます。)

3) 基礎および応用プログラム開発に関するものなどが含まれます。

研究開発課題をお持ちの方は、「研究開発計画申請書」(センターにあります)に必要な事項を記入して申し込んでください。研究開発計画に参加できる方(代表者および協力者)は利用有資格者(およびセンター職員)に限ります。

申請された課題は研究開発計画専門委員会で審査され、運営委員会の承認を得たものについて実行に移していただきます。

承認された課題についての計算機の利用は、クローズド形式およびオープン形式のどちらでも自由です。ただし、オープン形式の場合またクローズド形式でも特定の時間帯を必要としたり、まとまった時間が必要であるような場合には、他の一般ユーザーへの影響もあるので、計算機の使用法、時間帯などについては予めセンターの業務掛と協議していただきます。

また、現在のセンターの処理能力とユーザーの利用状況から見て、この研究開発にあまり多くの時間をさけないことも予めご了承ください。現状ではUSE TIMEで週4時間をさけないことも予めご了承ください。現状ではUSE TIMEで週4時間程度と考えています。

(別記)研究開発計画の公募に当って

(昭47.9.)

大阪大学大型計算機センターは全国共同利用の計算センターであります。全国共同利用の計算センターは、その設置の推進力となった学術会議の勧告にも見られるように、学術研究の各分野における計算機利用の強い要望に応じて設置されたもので、計算機利用サービスを主目的とするものであることは言うまでもありません。ところで、計算機利用サービスが単にメーカーの提供したものをそのままの形でサービスに供すれば十分であるというものでないことは言うまでもないと思います。メーカーの提供するものは、ごく基本的あるいは一般的なもので、学術研究のための利用には更にいろいろなものを追加し、あるいは改善する必要があります。これがセンターが研究開発計画を立てて実行せざるを得ない一つの理由です。それは応用プログラムの開発から場合によっては言語やオペレーティング・システムの改良、開発までも含むことになるでしょう。このような研究開発計画は各分野の研究者である利用者の方々の協力がなければ実現できません。ものによっては利用者の方々に主体になっていただかなければなりません。それは例えば応用プログラムの開発について考えていただければおわかりになると思います。計算機のいろいろな利用法の開発にしても同じです。これが研究開発計画を広く公募する一つの理由です。

また、共同利用の大型計算機センターは計算機利用サービスを主目的とするものではありませんが、大学にこの種の機関が設置され少数ながらも専任教官が任用され、かつ多数の教官がその運営に協力していることの意義は、それが単純なサービス機関としてだけでなく、より広い意味で大学における研究活動に寄与するという点にあることも忘れてはならないと思います。大型計算機センターが大学の共同利用施設として存続し発展しうするためには、計算機システムの利用効果的な利用をめざしてたえず努力を続けなければなりませんし、そのことがまた利用者の研究に対しても便宜をもたらし、同時に計算機科学の進歩にも貢献することになります。このためにはセンターにおいても研究条件を整備し、センターとしての長期あるいは中期の研究計画を樹立することが必要です。研究開発計画の公募はその一環という意味を持っています。以上のような意味での研究開発は従来からもその必要性が痛感されていましたが、センターの設備の能力その他の理由で現在まで研究開発計画を公募することは見送られてきました。現在でも事情が好転しているとは決して申せませんし、研究開発に使用できる時間もわずかなものにならざるを得ませんが、いつまでも放置するわけにはいきませんし、センターと利用者との結びつきを深める意味からも小規模なりとも開始し、将来への足ならしとしたいと思います。

このような趣旨とセンターの現状とから、研究開発計画として差当って取上げられるものは次のようなものになります。

- (1) 比較的短期間で完了し、その成果が相当数の利用者に直接還元されるようなもの。
- (2) 利用者の当面の利益には直接つながらないかもしれないが、将来センターおよび利用者に役立つと期待されるもの。

研究開発計画申請書

昭和 年 月 日

大阪大学大型計算機センター長

高 木 修 二 殿

このたび下記研究課題により研究開発をいたしたく「研究開発
内規」を遵守し、申請いたします。

開発 代表者	大 学 名	学 部 名	学 科 名	官 職	(ローマ字) () 印 氏 名
					課 題 番 号
開発 協力者	所 属 機 関				
	官 職				
	氏 名				
開 発 課 題 (和文・英文とも)	和 文				
	英 文				
開 発 予 定 期 間	自 昭 和 年 月 日 ~ 至 昭 和 年 月 日				
連 絡 先	大 学 名	学 部	学 科 名	官 職	氏 名
	所 在 地		郵 便 番 号 ()		
	TEL 市 外 局 番 () 局 番 () 番 号 () 内 線 ()				
計 算 機 シ ス テ ム 使 用 に つ い て 特 に 希 望 す る 時 間 帯	週 (曜 日) (曜 日)		申 請 時 間 (CPU 時 分)		
	午前 時 ~ 午後 時		申 請 金 額		千 円
備 考					
(センター記入)					
上記の申請を承認します。					
		課 題 番 号			
		登 録 氏 名			
昭和 年 月 日 大阪大学大型計算機センター長 高 木 修 二					

(1) 開発課題の説明

(資料があれば添付して下さい。)

(2) この開発課題の意義および予測される結果

1) アルゴリズムの概要

2) この整備計画の意義及び予測される結果

3) 備 考

1	登録番号					
2	分類コード					
3	プログラム名					
4	呼び出し名(引用名)					
5	プログラムの形式	a. コンプリート・プログラム b. サブルーチン c. 関数				
6	作成者名・作成年月日	作成者名	作成年月日	昭和	年 月 日	
7-1	改訂者名・改訂年月日	改訂者名	改訂年月日	昭和	年 月 日	
7-2	手を加える前のプログラムの登録番号・名前等	登録番号				
		プログラム名				
8	作成者の連絡先	TEL	- - (内線)			
9	利用者の義務	a. プログラム名と作成者名を明記する。 b. 明記の必要なし。 c. その他()				
10	ソース・プログラムの公表	a. する。 b. しない。 c. 相談のうえ				
11	使用 O S	機種名	OS名			
12	データ入出力のための使用周辺機器	a. 磁気テープ { 入力()本 出力()本 中間()本 } b. ディスクパック c. 磁気ドラム d. カード・リーダー e. カード・パンチ f. ライン・プリンター g. その他() h. なし				
	13	使用言語の種類	a. FORTRAN b. ALGOL c. COBOL d. PL/1 e. アセンブラ (名前) f. その他 (名前)			
14	使用メモリー	a. コア ()語 b. 周辺機器の種類(12のabc) ()語				
15	備考					
16	受付者名・受付年月日	受付者名	受付年月日			
17	登録者名・登録年月日	登録者名	登録年月日			
18	サービスの方法	ソース・プログラム	a. ソース・リスト公開 b. ソース・リスト非公開			
		相対形式プログラム	a. ディスクパック { ファイル名 編集年月日 削除年月日 }	b. 磁気テープ { ファイル名 編集年月日 削除年月日 }		
		絶対形式プログラム	a. ディスクパック { ファイル名 編集年月日 削除年月日 }	b. 磁気テープ { ファイル名 編集年月日 削除年月日 }		
19	備考					

1. 太線の枠内のみ記入して下さい。
2. プログラム名は、“連立一次方程式（掃出し法）”のように内容を示す名称を記入して下さい。
ただし、サブルーチン及び関数の場合に限り引用の際の“呼び出し名”も記入して下さい。
3. 利用者の義務の欄は、利用者がライブラリ・プログラムを利用した研究成果を発表するときに、当該プログラム名及び作者名を明記する必要があるか否かを示して下さい。
4. 使用OSの欄は、このプログラムをテストした機種及びOS名を記入して下さい。なお、OS名が不名の場合は、テスト年月日を記入して下さい。
5. 他の欄は、該当項目に○印を付し、必要事項を（ ）内に記入して下さい。
6. その他必要な事項があれば、備考欄に記入して下さい。

昭和53年度 計算機稼動状況

SYSTEM	ACOS	シリーズ	77	NEAC	システム	800	稼働時間	4096	KB	
稼働時間	4	5	6	7	8	9	10	11	稼働時間	
稼働時間	174:01	191:08	208:17	213:21	231:12	217:44	227:21	130:43	1595:47	199:13
稼働時間	0:00	0:00	0:00	1:40	0:00	0:00	0:00	0:00	1:40	0:12
稼働時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
稼働時間	2:10	2:51	4:05	2:07	3:18	2:08	4:02	3:00	23:41	2:57
稼働時間 (X)	0:05	1:30	2:30	4:48	4:59	1:49	8:51	7:00	31:12	3:54
稼働時間	317:41	261:08	225:01	197:34	72:25	70:31	84:48	82:18	1811:26	163:55
稼働時間 (A)	493:57	456:37	459:53	419:30	311:34	292:12	325:02	223:01	2961:46	370:13
稼働時間 (B)	37:28	45:13	56:34	27:08	59:03	41:04	55:58	10:20	332:48	41:56
稼働時間 (C)	0:00	1:50	3:03	0:37	3:23	0:47	2:10	0:00	11:50	1:28
稼働時間 (A+B+C)	531:25	503:40	499:30	447:15	374:00	334:03	383:10	233:21	3306:24	413:18
稼働時間 (A-X)	92.9	90.3	87.5	92.7	62.0	86.9	82.5	92.5	88.6	88.6
稼働時間 (A/(A+B+C))%	92.9	90.6	88.0	93.7	83.3	87.4	84.8	95.5	89.5	89.5
稼働時間 (D)	27	26	29	29	28	25	26	16	206	25
稼働時間 (A/D)	18:17	17:33	15:10	14:27	11:07	11:41	12:30	13:56	14:22	14:22

☆ ACOSシリーズ77 NEACシステム800は、昭和53年11月20日をもってサービスを終了した。

昭和53年度 バッチ利用状況表

利用形態		処理月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
I	オープン	処理件数	3,253(23.16)	4,141(23.18)	5,178(25.93)	4,933(25.09)	3,567(20.74)	5,301(26.01)	4,723(22.98)	3,218(27.11)		34,314(24.24)
		CPU時間	27,847	39,938	50,282	49,999	40,035	47,964	50,543	33,605		340,213
	デマンド	処理件数	1,601(11.40)	2,270(12.70)	2,462(12.33)	1,896(9.64)	1,582(9.20)	2,210(10.84)	2,051(9.98)	1,058(8.91)		15,130(10.69)
		CPU時間	298,198	283,203	324,851	276,911	290,098	304,598	283,218	172,561		2,233,638
	オープン 磁気テープ	処理件数	0(0)	80(0.44)	350(1.75)	328(1.66)	253(1.47)	274(1.34)	409(1.99)	255(2.14)		1,949(1.37)
		CPU時間	0	1,165	11,093	23,446	18,176	11,073	20,161	15,212		100,326
	クローズ	処理件数	10(0.07)	27(0.15)	49(0.24)	63(0.32)	65(0.37)	46(0.22)	30(0.14)	39(0.32)		329(0.23)
		CPU時間	66	1,113	3,772	11,018	5,288	32,359	66,763	24,148		144,527
	その他	処理件数	1,170(8.33)	1,931(10.81)	2,248(11.25)	2,441(12.41)	3,407(19.81)	3,380(16.59)	2,818(13.71)	1,413(11.90)		18,808(13.29)
		CPU時間	31,432	85,777	68,802	82,328	321,463	394,953	364,156	149,357		2,683,339
	リモート バッチ	処理件数	2,564(18.26)	3,387(18.96)	3,530(17.68)	3,408(17.33)	2,722(15.83)	3,140(15.41)	3,001(14.60)	1,596(13.44)		23,348(16.49)
		CPU時間	139,019	141,378	128,218	159,866	201,737	248,646	168,330	83,570		1,270,764
	会話型リ モートバッチ	処理件数	1,716(12.22)	1,804(10.10)	1,894(9.48)	1,329(6.75)	1,239(7.20)	1,208(5.92)	1,511(7.35)	860(7.24)		11,561(8.16)
		CPU時間	93,704	71,196	103,262	89,560	108,882	73,024	160,938	81,006		781,572
	T S S	会 話 数	3,727(26.54)	4,221(23.63)	4,254(21.30)	5,263(26.76)	4,359(25.35)	4,814(23.62)	6,003(29.21)	3,429(28.89)		36,070(25.48)
		CPU時間	169,181	119,389	128,775	147,151	100,162	100,059	125,789	113,761		1,004,267
合 計	処理件数	14,041	17,389	19,965	19,661	17,194	20,373	20,546	11,868		141,509	
	CPU時間	759,447	743,159	819,055	840,279	1,085,841	1,212,676	1,239,898	673,220		7,373,575	
II	オープン	処理件数								5,486(29.21)	10,213(31.19)	15,699(30.47)
		CPU時間								55,688	103,828	159,516
	デマンド	処理件数								3,850(20.50)	3,789(11.57)	7,639(14.82)
		CPU時間								828,257	525,408	1,353,665
	オープン 磁気テープ	処理件数								302(1.60)	828(2.52)	1,130(2.19)
		CPU時間								23,070	38,875	61,954
	クローズ	処理件数								27(0.02)	106(0.32)	133(0.25)
		CPU時間								16,210	37,251	53,461
	その他	処理件数								2,017(1.78)	2,998(9.15)	5,015(9.73)
		CPU時間								122,580	582,833	705,413
	リモート バッチ	処理件数								2,231(11.88)	5,010(15.30)	7,241(14.05)
		CPU時間								181,762	237,486	416,548
	会話型リ モートバッチ	処理件数								1,418(7.55)	2,222(6.78)	3,640(7.06)
		CPU時間								96,813	75,111	171,924
	T S S	会 話 数								3,444(18.34)	7,574(23.13)	11,018(21.38)
		CPU時間								113,019	246,837	409,856
合 計	処理件数								18,775	32,740	51,515	
	CPU時間								1,437,399	1,847,629	3,332,337	

1. ()内は同一システム内での百分比を示す。
2. 合計欄の処理件数は、TSS会話数を処理件数とみなして集計している。
3. システムIはACOSシリーズ77システム800。
4. システムIIはACOSシリーズ77システム900。

「速報」及び「お知らせ」の集録

<速報№57(54.12.4)より>

I. IDカードによるデマンド出力について

昭和54年1月からデマンド出力の方法を変更する予定です。現在は、利用者入出力室に設置してあるミニ・プリンタから、課題番号及びパスワードを入力し、プリント出力していますが、昭和54年1月からは「IDカード」によるデマンド出力サービスを行います。

1. IDカード

IDカードは図のような形をしていて、磁気部に課題番号とパスワードを書きこんだプラスチックのカードです。

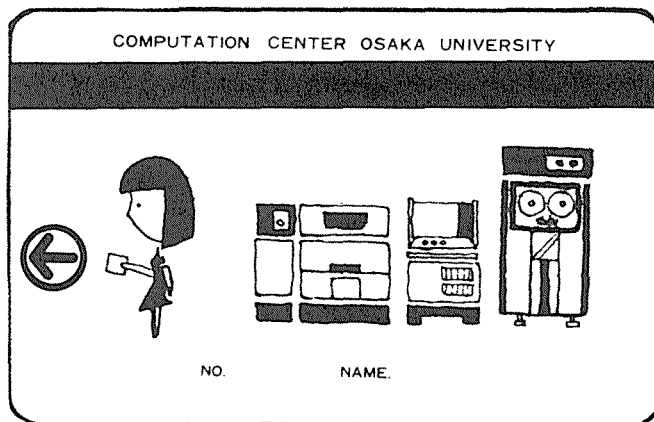
このIDカードをIDカード読取機に挿入することにより計算結果を取り出すことができ、現在の方法より操作は非常に簡単になります。

2. IDカードの申請手続

センターに直接こられる利用者で、IDカードを希望する方は、別添「IDカード申請書」を、センターのジョブ受付へ提出されるか、もしくは共同利用掛宛郵送して下さい。

3. IDカードの交付について

- (1) 12月20日までに申請のあった利用者には、昭和54年1月5日からセンター・ジョブ受付で交付いたしますので、早目に受領して下さい。
- (2) 1月5日以降も、センター・ジョブ受付で随時受け付けますが、窓口の混雑時はカードの交付までに若干の時間がかかります。



IDカード(実物大)

(共同利用掛)

II. 利用負担金の改訂について

当センターニュース 4 頁に同じ内容掲載のため省略します。

III. 年末年始の業務について

年末年始の業務を下記のとおり行いますので御留意願います。

記

年 月 日 項 目	昭和53年12月			昭和54年1月		
	23 (土)	26 (火)	27 (水)	5 (金)	8 (月)	9 (火)
(1) 計算依頼の受付処理等 ○オープン入出力の利用 ○JOB 受付窓口	→			13時	→	
(2) オンライン・サービス ○T・S・S, R・B・S	→			13時	→	
(3) プログラム相談	→				→	
(4) オープン・パンチ室 デバック室・PCS室 及び、カード・ロッカー の利用	→ 12時			13時	→	
(5) ドラフターの利用	→			13時	→	

(注1) 受付等の開始及び、終了時刻は、それぞれ決められた時刻で行います。

(注2) 12月26日(火)までに処理できないジョブは明年1月5日以降の処理となります。

(注3) 学外利用者の計算依頼については郵便事情等の問題もありますので、できるだけ早く行ってください。

(業務掛・共同利用掛)

Ⅳ. ACOSシステム900でのドラフター・サービスについて

システム900のFORTRANはHEX(16進)モードが標準になるため、ドラフター・ジョブのコントロール・カードも変更されました。

又、従来パーマメント・ファイルを仲介して磁気テープに製図イメージを書き込んでいましたが、新たにユーザ・ジョブから直接・製図イメージをオープン磁気テープに書き込むサービスを追加します。

1. ジョブ構成

a) パーマメント・ファイルによる方法

カラム	1	8	16
	\$	JOB	課題番号 \$ パスワード, F
	\$	LIBRARY	{ DH (HEXモード) DB (BINモード)
	\$	FORTRAN	{ <u>HEX</u> BIN
			{ ソース・プログラム
	\$	GO	{ <u>HEX</u> BIN
	\$	LIMIT
			{ データ(ある場合のみ)
	\$	CPROC	DAP
	\$	ENDJOB	
		*** EOF	

注) 変更されたのは\$ LIBRARYカードのファイルコードのところだけです。下線を引いてあるのは省略時にとられるオプションです。

b) オープン磁気テープによる方法

カラム	1	8	16
	\$	JOB	課題番号 \$ パスワード, F
	\$	LIBRARY	{ DH (HEXモード) DB (BINモード)
	\$	USE	.GXLT2

\$ FORTRAN { $\frac{\text{HEX}}{\text{BIN}}$

{ ソース・プログラム

\$ GO { $\frac{\text{HEX}}{\text{BIN}}$

\$ LIMIT

{ データ (ある場合のみ)

\$ CPROC TDAP

\$ ENDJOB

*** EOF

注) 印がオープン磁気テープの場合の新しいコントロール・カードです。

2. オープン磁気テープ使用の際の注意事項

- a) \$ SNUMB カード は下1桁がMのものを使用し、\$ JOBカードのジョブ・クラスは D (パーマネント・ファイルの場合は F) を指定すること。
- b) \$ USE .GXLT2 カードは必ず \$ FORTRAN カードの前に挿入すること。
- c) データ・カードがある場合、\$ CPROC TDAP カードは、データ・カードの後に挿入すること。
- d) センターでは磁気テープの貸出しはしませんので、利用者は各自テープを用意すること。
(テープは 800 BPI 以上の密度のものを使用)
- e) ドラフターの予約は以前と同様ですが、オープン磁気テープも予約制ですので必ず予約簿で予約してから使用すること。使用する磁気テープ装置は7トラックです。
- f) DAPSTR-NO 控にはパーマネント・ファイル使用の場合のみ出力されます。(オープン磁気テープを使用した場合はドラフター装置の SERCH ボタンは押す必要はありません。)
- g) テープはジョブを投入し、リモート・ディスプレイに
*MEDIA-S#NNNNM-NN MNT #99999 MT-DRAFTER
というメッセージが出力されてからマウントすること。マウントの後 PROTECT ランプが点灯していたら PROTECT ボタンを押し、ランプが消えるのを確認すること。
- h) 実行中、プログラムがアボートしても、その時点までの製図イメージはテープ上に残り、EOFマークも書かれます。
- i) テープの内容はラベルなし、ブロッキングなし、1レコード/133キャラクタのNEAC

コードで書かれています。このテープのダンプ・マージ等は「データ管理サービス・プログラム」説明書のUTL2で行って下さい。

j) プログラム・スイッチ・ワードは 0 ～ 34 を使用し、35 は使用しないこと。

(システム管理掛)

V. 科学研究費による利用期限等について

昭和53年度分科学研究費による計算機の利用期限は、昭和54年2月15日(木)までです。なお、利用期限を過ぎますと課題番号は、抹消され、これに伴いファイルも消去されますので御留意願います。

また、科学研究費利用分については、校費による振替支払いはできませんので、予算額の管理方御配慮願います。

(共同利用掛)

VI. カードロッカーの更新及び、整理について

カードロッカーの使用については、第3期(10月～12月)から第4期(1月～3月)にかけての使用申し込みが年末・年始にかかるため、手続きの開始を早め12月13日(水)から開始いたしますので継続して使用されたい方は、なるべく早く更新手続きを行ってください。

なお、期限切れとなっているもの及び、使用者名簿に更新手続きを行っているものでも、ロッカーの使用票(正規の色)を変更していないものは明年1月10日(水)に整理しますので御留意願います。

(共同利用掛)

プログラム交換のページ

もし、皆様がプログラムを「譲りたい」「求めたい」と思われたら、次の投稿記入項目の必要箇所を記入し、本センター庶務掛へ送付して下さい。

できる限り、最新のセンター・ニュースに掲載します。

このページをプログラム公開と譲り受けの場として気軽に御利用下さい。

プログラム交換のページの投稿記入項目

※印の付いた項目は必ず記入して下さい。

※ 1. 要 望

[譲ります]か[求めます]かいずれかを記入。

※ 2. プログラム名

内容を示す名前（例えば連立一次方程式数値解法）と引用する時の名前（例えばSLINEQ）を記入。

※ 3. プログラムの内容又は解法

アルゴリズムの特徴について説明すること。例えばプログラム作成上で特に工夫された点があれば、それらを記入する。

※ 4. 利用者の義務

このプログラムを利用した仕事の公表に際して、その旨明記する必要があるのか否かについて記入（“譲ります”の場合のみ）

※ 5. プログラム作成者名、連絡先及び連絡方法

6. 現在このプログラムが利用されている、あるいはやがて利用されるであろう分野

例えば物理学・物性論、化学・高分子結晶解析など。

7. プログラム使用上の制限事項

データ入出力における周辺機器やオペレーション上の制約や情報を記入。あるいは、例えば最大100次元の連立一次方程式までしか解けませんなどのアルゴリズム上の制限なども記入する。

8. 使用されたプログラミング言語

FORTRAN, COBOL, ALGOL, PL/1など。

9. プログラム・ステップ数

例えば、ソース・カード・イメージでの枚数など。

10. プログラム実行時に必要な最大メモリー・サイズ

11. 代表的例題に対する計算所要時間

12. プログラムの形式

コンプリート・プログラム、サブルーチン副プログラム、関数副プログラムなど。

13. プログラムの開発された計算機

機種名及びOSについて記入。

14. 利用可能状況

ソース・リスト、ソース・カード、マニュアル、計算例などのプログラム利用に関する情報の整備状況について記入する。

15. 関連又は補助プログラム

16. 参考文献

- 備考
1. 詳細な書式については適宜の方法で結構です。
 2. ※印以外の項目については不明又は不要と思われる場合は省略してもかまいません。
 3. このページは利用者間のプログラム開発に関する情報交換のためのものです。したがって、プログラムの交換についての具体的世話は、大研計算機センターでは一切いたしません。

センター・ニュースの刊行時期について

大阪大学大型計算機センター・ニュースの刊行時期は、原則として2月、5月、8月、11月の予定です。